

事業所名 グループホーム六じょうや

運営推進会議開催報告書

開催日時 平成30年10月25日(木) 14時00分～15時00分		
参加者		議題
利用者	8名	1 六じょうや基本理念・目指す場所
利用者家族	0名	2 入居者情報
地域住民の代表者	1名	3 利用者の医療看護の状況
市職員	1名	4 行事報告 実績写真添付
地域包括支援センター職員	0名	5 事故報告
事業所	4名	6 身体拘束廃止委員会
		7 今後の事業計画
会議録		
<p>1 上記の議題について資料を基に施設職員が各自発表を行った。その後参加者全員の方に質問や感想を頂き、お答えした。</p> <p>2 入居者要介護度の状況、平均年齢、平均介護度、年齢別介護度、面会者数などについて前回との変化を発表した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平均年齢（男性79.5歳、女性89.1歳）・平均介護度（男性3.5、女性3.71） ・期間中（H30.8.23～H30.10.23）面会者数 47回（1日平均0.8人）いつも差し入れの果物やお菓子をありがとうございます。入居者の皆様も喜んで食べられています。感染症による体調不良時のご面会はご遠慮願います。 <p>3 入居者の医療看護の状況（H30.8.23～H30.10.23の期間）</p> <p>〔利用者の転帰状況〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・退去者0名 ・新入居者0名 ・入院者1名 退院者0名 ・他の医療機関受診状況→訪問マッサージ2名 <p>〔入居者の看護、介護の状況〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かかりつけ医（トータルサポートクリニック往診） 内科9名受診、眼科9名受診 ・内服管理9名、血圧管理3名、鎮咳・認知症貼薬3名、点眼5名、軟膏塗布6名、湿布外用・鎮痛3名、ガーゼ交換1名、体重・水分管理3名、骨 		

粗鬆症薬・リウマチ薬・糖尿病薬3名、認知症サプリメント1名、認知症点滴療法1名、酸素飽和度測定4名、口腔・気道吸引1名、在宅酸素2名

・食事・水分・排泄・入浴・移動状況の説明

〔利用者の健康教室開催状況〕講師矢萩看護師

・9月―秋の感染症 健康体操 ・10月―誤嚥、インフルエンザ予防
入居者参加と職員参加で一緒に勉強しています。(毎回25人程参加)

〔健康管理総括〕

・夏を無事に過ごせてほっとしている矢先、秋の兆しと共に精神不穏の波が忍び寄ってきました。まだまだ暑い夏を感じさせる日々の中でも、確実に秋の健康上の支障である自律神経失調の現象がみられます。その数名の方々は、訳も分からずざわざわとした落ち着かない状態で、怒りや不安、夜間せん妄などの症状がある状態です。対応する職員もそのような心構えを持っていても、突発的に発生するので、介護困難に遭遇しています。医師、看護師の連携で、頓服薬の服用や寄り添いで傾聴するなど、時間をかけて対応している最中です。早く季節が冬に落ち着いて、精神的に安定できる日々が来るといいのですが、冬は冬で感染症の心配が増えます。季節的なパターンを把握し、総合的におだやかな介護を心がけています。

・敬老の日を迎えて超高齢者の他界等で、今年は横綱、大関、関脇、小結のメンバーが入れ替わりました。男性平均79.5歳、女性平均89.1歳、全体87歳で全国比較より長寿の状況です。今後も食欲や活気、持病やバイタルの変化を重視して、対応していきます。

・運動会も白組(GH)勝利で終わり、なぜか4年間負けていません。心も身体も持てる力を発揮して、やるときにやるのが、六じょうやの皆様の強さかもしれません。非常時に生きる力の源はやはり日々の暮らしの中で培われていると感じます。みなさん高齢で病気もあるのですが、基本的に生きようとする力をお持ちの方ばかりなので、私たちは助かっています。

・インフルエンザの予防接種は11月初旬予定です

4 主な行事報告

- ・9月15日 敬老会
- ・9月27日 お彼岸 おはぎ昼食作り
- ・10月10日 運動会

各行事の楽しさを説明し、写真を添付してご家族にも知って頂きました。
2階の有料老人ホームの方々と合同で行うイベントも多々あります。

5 事故報告―今回起きた事故について詳しく報告した。

6 身体拘束廃止委員会(第2回)

- ・前回の決定の確認 参加者からのご意見

次回の身体拘束廃止委員会はH31年4月です。

7 今後の事業計画

- 設備についての計画説明
 - 外部評価のアンケートのお願い
 - 今後の主な行事のお誘い—紅葉ツアー、音楽ボランティアによる音楽会
 - 入居者状況
- 次回運営推進会議H30年12月27日

〔皆さんの質問や感想〕

(瀬戸市職員)

- 事故について—今後も救命講習など研修を継続して行って下さい。
- 身体拘束廃止について—拘束を行う場合は利用者へ与える影響を十分に検討し、必要最小限にするように努めてください。
- 私も皆さんと同世代です。お互い頑張りましょう（近所の方）
- 毎日楽しくやっています（入居者）
- もっと飽をください（入居者）

※ご家族や、地域の方の会議への参加を促すようにしていく。